

Vol.36 2020年3月号

発行:責任編集 狛江市岩戸北 3-18-8-701 狛江で分かりやすい 政治を伝える会





新型コロナウイルスの影響で、市民の皆様の職場でも在宅勤務やインターネットを使った会議等、新しい働き方をされている方が多いことと存じます。こんな時だからこそ、今までのやり方を変えていくビッグアイデアが生まれてくるかもしれません。がんばれニッポン。ぜひ、「禍転じて福となす」を実現していきましょう。



さて、狛江市では自治体の最上位計画(第4次基本構想)が令和2年度より10年間のスパンでスタートしまます。テクノロジーが急速に進歩していく時代です。行政運営のやり方も既成概念にとらわれることなく未来への備えを急いでいく必要があります。今号では狛江市の働き方改革の一端をご紹介してまいります。

ミヤケは"民間の当たり前"を提言してまいります。

RPA

ロボティック プロセス オートメーショブ

RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)とは、PC自動処理により操作を記録して人の代わりに作業するソフトウエア型ロボットのことです。

狛江市では国民健康保険レセプト点検において既に導入されています。被保険者の医療機関受診状況に応じたレセプト点検結果を担当職員が毎月一つ一つデータ入力していた時代から比べると大幅に業務効率化が図られたということです。

この他、新年度はAI-OCR(人工知能 による光学文字認識機能)も導入予定。



行政コストの削減、業務品質やスピード向上を目的とした実証実験が本格的にスタートします。

SIMフリー端末 が導入されます。

市役所の端末入れ替えに合わせて、一部SIMフリー端末やモバイルサービスが新年度から導入されます。会議等で活用される以外に、災害時には避難所における情報共有手段として活用されるようになったことは一歩前進です。

昨秋の台風19号、狛江市は避難所対 応として12の避難所運営に約90人の 職員を配置しました。職員間での情報共 有は電話やLINE等も活用されていたそ うですが、私用の携帯電話を用いての運 用となることが課題とされていました。

今後、何かの災害が発生した場合、避

難所で職員同士の 情報共有にスマホ やタブレット端末 が活用されること になりそうです。



行政とテレワーク

職場以外の場所で働くテレワーク。働き方改革の一環として注目を集めていましたが、今回のコロナ対策でも多くの企業等で実施されているという報道を目にします。狛江でも民間企業が駅ナカで子育てテレワークができる施設を和泉多摩川駅構内で運営中です。

私は自治体でもそうした民間主導の動きを注視していく必要があると考えます。 そこで、昨年、日本テレワーク協会名誉



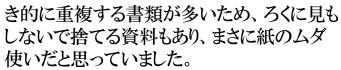
松原俊雄市長 宇治則孝氏

議会でもペーパーレス化に向け、ようやく動きが!

今から5年前、民間 から議会へ転職してき た私は、役所の書類が 全部、紙で来る文化に 唖然としました。

そもそも、エコでない ですし、市職員さんの 手間自体も大変です。

また、役所として手続



そんな旧態依然とした議会をなんとかしなければ!と、ミヤケはしつこいくらいペーパーレス化の必要性を主張してきましたが、なんと!「令和三年度からのタブレット導入」を目指した議論が本格的に始まることになりました。まさに、苦節5年(泣)。

